

知的障害のある児童生徒への自立活動の指導の充実を目指して

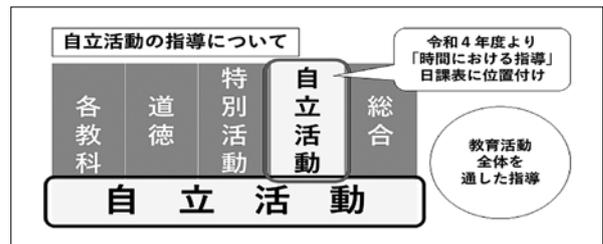


県立八千代特別支援学校教諭 ^{ひろせ} 廣瀬 いづみ

1 はじめに

本校は、知的障害を主とした教育と肢体不自由への支援機能をもつ特別支援学校である。小学部、中学部、高等部の3つの学部があり、「学び 気づき つながる」という学校教育目標のもと、その実現に向けた教育課程の編成と教育内容の充実を経営の重点の一つとして教育活動を行っている。

シートを活用しながら、個に応じた指導目標や指導内容の妥当性を高めるべく、検討と検証を進めているところである。



2 研究の取組

令和3年度の研究として、自立活動フローシート（以下フローシート）の試案作成とそれに基づく授業づくり、授業後の学習評価による授業改善のPDCAサイクルの実践に取り組んできた。令和4年度は、「知的障害のある児童生徒への自立活動の指導の充実」をテーマとして、研究に取り組んでいるところである。今年度は、昨年度の研究成果や課題等を踏まえて、全ての学部で自立活動の時間における指導を設定するとともに、フローシートを個別の教育支援計画に位置付け、それに基づき自立活動の指導目標や指導内容の設定、評価を行うこととしている。

フローシートの作成過程において、自立活動の視点による実態把握、客観的なアセスメント、小グループでの事例検討等を通して、強みや中心的課題を導き、目標や指導内容を設定することとしている。そのように、自立活動の指導の根拠となるようフローシートを作成し、より効果的な指導を行うことで、自立活動の指導の充実につなげることができる。

自立活動フローシート

3 時間における指導の設定と自立活動

フローシートの作成

自立活動の指導は、「障害のある幼児児童生徒の教育において、教育課程上重要な位置を占めている。」とされている（学習指導要領解説自立活動編 一部抜粋）。また、時間における指導を中心として、各教科や領域等の学習と密接な関係を図って行われるものであり、各教科や領域等の学習の基盤になると言える。そこで本校では、自立活動の時間における指導を中心とした実践において、フロー

4 おわりに

自立活動の指導は、障害による学習上又は生活上の困難の主体的な改善・克服を促す教育活動であり、その専門性は、特別支援学校の教員として必要不可欠な資質・能力である。自立活動での取組が、児童生徒の心身の調和的な発達の基盤を培い、各教科等において育まれる資質・能力を支える役割となるように、特別支援教育の基本であり、かつ中核である自立活動の指導の充実を目指し、研鑽を積んでいきたい。